

各ブロックの授業実践

1年 たしざん

視点1 【手だて①-2】 問題提示の工夫
前時の問題と類似した問題を提示する。



前時と類似した問題を提示することで、題意を把握しやすく、問題への関心を高めることにつながる。



色分けすることで、児童は「10のまとまり」を意識して、計算の仕方を考えることができる。

視点2 【手だて①-3】 自力解決の工夫

ブロック操作の際、「10のまとまり」は白色、「いくつ分」は黄色に分けて操作する。

さまざまな発表から違う点や似ている点を見つけることで、「10のまとまり」を作ることによって計算しやすくなることに気付かせる。

視点3 【手だて③】 練り上げの工夫

ブロックや図、式を用いた発表などからそれぞれの違う点や似ている点を見つける。



4年 変わり方調べ

視点1 【手だて①-2】 導入の工夫
前時の正三角形の問題との違いを明確にし、見通しをもたせる。



実際に正方形の色板を並べて、変化に気付かせる。

視点2 【手だて②-3】 自力解決の工夫
ヒントコーナーを活用して、自力解決の手助けとする。



伴って変わる量に赤で印を付けて掲示する。

視点3 【手だて③-1】 練り上げの工夫
小グループでの伝え合いを通して、多様な見方・気付きに触れさせる。



「伝えあいのポイント」を活用して伝え合う。

5年 小数のわり算

視点1 【手だて①-1】 地図をもとに「解いてみたい・やってみみたい」と思うような課題を工夫する。



児童に身近な地図を用意し、児童の興味関心を高める。

視点3 【手だて③-3】 ペア学習やグループ学習で自分の考えを確かのものにする。



視点2 【手だて②-2】 児童の学習状況に応じヒントカード、ヒントコーナーを用意する。



「解決の見通しがもてない・考えがまとまらない児童をヒントコーナーに集め、数直線を用いてヒントを提示する。

互いの考えを比べ、友達の発表に対して反応をしながら交流を進める。